

広

報つるは、昭和29年の市制施行後、56年にわたって市民の皆様「まちの動き」を伝えてまいりましたが、本号で発刊第600号を迎えることができました。

「情報化社会」といわれる現在においては、携帯電話や、インターネットなど、電子通信網を通じ、時間や場所にとらわれることなく、さまざまな情報を受け取り、また、発信することが可能となっています。

このようなデジタル全盛時代に、紙というアナログな情報媒体を使用する広報つるが、一番身近で確実な情報源として今もなお多くの市民の皆様へ愛され、支えられ、発刊600号という大きな節目を迎えられたことは、大変喜ばしいことであると同時に、大きな意義があるものだと感じています。

一般的に「広報誌」の役割は、「広く人々に知らせる、紙媒体の情報伝達手段」ということができます。しかし、広報つるの場合、発行者である都留市の単なる情報伝達手段というだけではありません。市民の皆様と行政が協力して、はじめて毎月一冊の広報つるが作り上げられているのであり、この広報つるを通じて、市民と行政が諸情報を共有することによ

「情報化社会」といわれる現在には、多くの情報伝達手段があります。その中でも広報紙は、市民に一番身近な情報源だと言えます。

り、市民との合意に基づく市政経営が進められているのだと考えております。

思えば、この56年間、その時々旬な「まちの動き」をお伝えしてきた広報つるですが、今見返しますと、その時点での最新情報や、一枚一枚の写真から時代の息づかいを感じる事ができ、本市の歴史を今に伝える、いわば歴史書のような重みさえ感じることができません。

こうしたことから、今後も広報つるの果たす役割とその責任は大きく、引き続き、よりよい紙面づくりのために、市民の皆様との「協働」により、後世に都留市の歴史を引き継いでまいりたいと考えております。

また、今回、600号を機に紙面を一新いたしました。過去何度ものリニューアルを重ね、市民の皆様へ親しまれる広報づくりを努めてまいりましたが、情報を整理し、カテゴリーごとにまとめることによつて、わかりやすくお伝えできるような配慮をいたしました。「伝統は革新の積み重ね」という言葉を杖言葉に、より親しまれ、役に立つ広報とし、充実を図ってまいりますので、引き続きご愛読をよろしくお願い申し上げます。



『広報つる』
600号を迎えて

都留市長 小林義光